

がんばる

Chubu

観光地域づくり編

昇龍道の中部エリアで展開される「観光地域づくり」を紹介する特集。今回の舞台は三重県多気郡大台町。アウトドアを中心とした観光を通して、地域ブランディングを進める「(株)Verde大台ツーリズム」の取り組みを追う。

新たな客層を開拓し “アウトドアのまち・大台町”を ブランドにしてい



アウトドアプログラムによる体験観光で地域活性化を目指す

山と森と水が織りなす絶景の地

三重県の中部に位置する大台町は、東西に細長く広がり日本一の清流・宮川が町を横断するように流れている。東部は茶畑や田んぼが広がる農村地域、西部は1,000m級の山々に囲まれた山村地域で、町土の約90%は森林が占める。

大台町の名所といえば、奈良県との県境にある大杉谷が有名だ。富山県の黒部峡谷、新潟県の清津峡とともに日本三大峡谷に列せられ、全長14.1km・高低差1,415mの登山道が整備されている。深く切り立った峡谷と多様な植物に恵まれた原生林の森は、近畿の秘境と呼ばれ訪れる者を魅了してやまない。

愛知県からの移住者が新しい風を吹き込む

大台町を訪れる観光客は、つい最近まで登山や釣りが目当ての客層が多かった。登山においては総門山など初心者が楽しめる山もあるが、大杉谷となると登山道の大半は中級者以上向き。そのため、ファミリーや女性グループといった定番観光地で多く見かける客層は少なかった。

そのような大台町の観光事情に新しい風を吹き込んだのが(株)Verde大台ツーリズム(以下、ベルデ)だ。愛知県から移住した野田綾子さんが、豊かな自然環境を生かしたアウトドアプログラムでファミリーや女性グループの獲得に成功。大台町のアウトドアフィールドをより多くの人に楽しんでもらおうと奮闘している。

野田さんは愛知県一宮市出身。地元の中学校で体育の教員となり、結婚を機に豊田市の学校に移り働いていた。夫婦ともに





Verde大台ツーリズム代表取締役の野田さん(42)。Verdeとはスペイン語で緑を意味する

仕事に費やす時間が長く、休みも別々。また、マンション暮らしで趣味を楽しむスペースも限られていたため、いつしか自然に近いところで家を構え、趣味を生かした暮らしをするのが二人の希望となった。家探しをはじめ、エリアを拡大していくうちに大台町で理想的な

日本家屋と出会った。さらに、常緑樹の多い大台町では、冬でも緑色の木々、そして緑色の川が眼前に広がり、その精気あふれる景観が移住を決める後押しとなった。

登山道の再開をきっかけに観光業界に入る

話は2004年に遡る。大杉谷が台風による土砂災害で壊滅的な被害を受け、登山道の閉鎖を余儀なくされることとなった。大杉谷登山センターをはじめ、環境省、三重県、大台町の尽力により2014年に全線再開したものの、10年という歳月は大台町の観光産業に大きな痛手を与えた。登山道の再開にあたり、観光協会では新しいガイドツアーなどで集客を増やそうと考え、企画・運営できる人材の募集をはじめた。

その頃、野田さんは大台町に移住して1年が経過し、何か面白そうな仕事があればやってみたいと思っていた。その矢先に観光協会の求人募集を目にし、「これだ!」と直感。応募したところ採用が決まり、観光協会の職員として働くこととなった。

観光協会の事務局は、正規職員の野田さんのほか、地域おこし協力隊員2名とパート1名というこじんまりした組織で、舵取りは野田さんに一任された。

野田さんがまず変えたかったのが、1日しか人集めできない祭りやイベントの運営に終始している状況だった。「これでは観光で町を潤すことはできない。観光資源の価値を見極め、高くても売れるものを商品化し、持続的に観光客を呼び込む体制を構築していかなければならない」と行動を開始した。

アウトドアをキーワードに地域活性化を進める

重要なのは“町として何を売りにするのか”を明確にすること。そこで野田さんは、アウトドアに焦点をあて、体験



写真の「シシ淵」をはじめ大杉谷は秘境と呼ぶに値する絶景の宝庫

プログラムの企画・運営を開始。自身もガイドの資格を取り、まずは大杉谷への日帰りツアーを手掛けていった。

しかし、行政主体の観光協会という立場では制約も多く、やりづらさを感じるこ

ともあった。ツアー料金の安さもその一つで、価格競争に走ってはいすばらしい観光資源の価値が下がっていくと危機感を募らせていた。野田さんは、“アウトドアのまち・大台町”という地域ブランディングにつながる商品を見出し、ビジネスにする会社をつくろうと決意。2016年にベルデを立ち上げるに至った。

地域の魅力に光をあてたベルデ式観光地経営がはじまる

“アウトドアのまち・大台町”づくりの開始

民間の観光事業者として再出発した野田さんは、本格的に地域ブランディングを進めていく。宮川でのSUP^{サップ} (Stand Up Paddleboardの略)と大杉谷の登山を柱に、カヤック、トレッキング、サイクリングなど、多彩なアウトドアプログラムを商品化。野田さんと7名の登録ガイドによってツアーを催行している。

ターゲットは30～40代の女性に設定。家族旅行では母親が行き先の決定権を握っているケースが多いからだ。さらに、この年代の女性はグループ旅行もよくするうえ、情報発信力も高い。

集客にはホームページに力を入れた。女性が好むデザインやキャッチコピーに加え、写真はプロに依頼するなどことんこだわった。その結果、見事にターゲット層の



2人乗りや6人まで乗れるSUPボードも取り入れているので家族みんなで楽しめる



SUPで宮川の支流に入れば探検家気分も味わえる

心を掴むことに成功。同業他社に比べ旅行販売サイトを通さない直販が圧倒的に多いという。

ベルデは、2棟のゲストハウスの運営も行っている。大台町では宿泊施設が圧倒的に少ないことが課題となっていたため、現状打開に少しでも貢献できればと、まずはファミリー向けの一棟貸し「宿屋まてまて」を2017年に開業。さらに、女性客が多いことから、2019年には女性限定のドミトリー「まてハウス」を開業した。



宿屋まてまてのウッドデッキ。テントを張って星空観賞する宿泊者もいる



まてハウスでは宿泊者同士の交流が盛ん。新しい仲間づくりにも最適の空間

春・秋とインバウンドの誘客を強化していく

野田さんの手腕により、大台町では少数派だったファミリーや女性グループは増加してきたが、ベルデの事業にもまだまだ課題はある。アウトドアプログラムとゲストハウスをあわせて年間約2,000人の利用があるが、その大半が夏に集中することだ。特に一番人気のSUPでは、夏休み中にオーバーツーリズムが起きている状況だ。

「SUPは波に足を取られて水に落ちるイメージが強いので夏の遊びと思われがちだが、宮川の流れは非常に



筆者が10月末にSUP体験した際の写真。空中に浮遊しているかと思うほどの透明度と鏡のような水面に感銘を受けた

穏やかで水に落ちることはまずない。春や秋は水の透明度が一層高く、人も少ないので美しい自然を独占できると、夏では体験できないプラス面をもっとアピールし、年間

利用者を3,000人にすることを目標に掲げている。

また、2016年に大台町全体が「ユネスコエコパーク」※に認定され、インバウンドへの認知度向上が期待できることから、現在、国土交通省中部運輸局と連携した新たな取り組みをはじめている。宮川の“水”をキーワードに、水×食、水×光、水×アクティビティ、水×森林の4つのテーマで体験型のプログラムをつくり、欧米豪からの誘客と滞在の促進を図っていく予定だ。

「自社、地域ともに最大の課題はプロモーション不足」と野田さんはいう。

名古屋・大阪から車で150分の距離にもかかわらず、近畿の秘境と呼ばれ遠方なイメージが浸透していることも、気軽な旅行先として選ばれない理由かもしれない。「とにかく大台町を知ってもらおうコンテンツを一つでも多くつくっていくこと。それこそが最大のプロモーションになる」と励んでいる。

※ユネスコエコパーク:ユネスコが認定する「人と自然が共生しながら“持続可能な暮らし”を目指す地域」の日本での通称。



2019年9月より水×光の体験として、ナイトSUPを開始。SUP後には奥伊勢フォレストピアでBBQと温泉も楽しめる

環境保全と観光振興を両立できる地域を目指して

今秋、隣接する多気町に複合型リゾート施設「VISON」(旧称・アクアイグニス多気)が開業を予定し、さらに、秋以降には積水ハウスとマリオットインターナショナルが進めるロードサイド型ホテルが「道の駅 奥伊勢おおだい」の近くに開業する予定だ。これまで宿泊施設が手薄だった地域への新たな受け皿の誕生は、大台町の観光に大きな変化をもたらすだろう。

地域の宿泊者数が底上げされるのは喜ばしいことだが、ユネスコエコパークの町としては自然環境の持続的な利活用をこれまで以上に考え、対応していかなければならない。そのためにも野田さんは、「オーバーツーリズム」対策と「環境保全への意識浸透」のために、観光客のマナーに対するルールを行政や観光協会と協働してつくれないかと思案中だ。

「ユネスコエコパークの認知度は、日本ではまだ低いが、世界では国立公園よりも高いといわれる。その強みを生かして世界に向けたプロモーションを仕掛けられるよう、環境保全と観光振興のバランスが取れた地域づくりは必須だ。それこそが人と地域の幸せにもつながり、真の豊かさを未来に残していける」と、野田さんは目標達成に向けて努力を積み重ねていく。

文:総務部 櫻井 景子
取材協力:(株)Verde大台ツーリズム
代表取締役 野田 綾子 氏



あなたは清流派？それとも山派？

Verde大台ツーリズムの人気ツアーで手つかずの大自然を満喫しませんか

1 SUPハーフ

～日本一の清流で2時間半のSUP体験～

初心者・お子様歓迎！清流・宮川、奥伊勢湖（三瀬谷ダム湖）をフィールドにガイドが安全にレクチャーします。穏やかな湖面のアウトドアフィールドなので、SUP初心者や初級者に安心のプログラムです。夏休み期間はサンセットSUPも催行。



- 期間 4/13～10/31
- 時間 9:30～12:00、13:00～15:30（サンセット16:30～19:00）
- 定員 14艇（最小催行人数2艇）
- 料金 6,000円/1人（トップシーズン6,500円/1人）
※同乗料金：10歳未満のお子様は保護者との同乗（3,000円、トップシーズン3,500円）



2 宮川ダム湖・秘境SUP

～キャンプクッキングランチ付～

限定開催

6月～9月の第4日曜日に開催！清流・宮川の最上流域をフィールドに大杉谷の絶景を堪能しながらSUPが楽しめます。キャンプクッキングの美味しいランチも付くとっても欲張りなプログラムです。

※宮川上流フィールドは許可を得て使用しています。



- 期間 6月～9月の第4日曜日
- 時間 9:00～14:30
（入水ポイントへの移動時間約40分、体験時間4.5時間）
- 定員 7艇（最小催行人数2艇）
- 料金 12,800円/1人



3 絶景のモスワールド

～はじめての大杉谷～

登山口からいきなり鎖場が続く大杉谷。その入口に構える六十尋滝や能谷、京良谷までの吊橋や絶景をゆっくりと楽しむ内容で、大杉谷のはじめの一步に最適！大杉谷登山道は経験豊富な登山者でも事故に遭う可能性があるため、まずは日帰りのガイドツアーで体力を試してみることをお勧めします。



- 期間 4/下旬～11/下旬
（大杉谷開山期）
- 時間 9:00～16:00
- 定員 4名（最小催行人数2名）
- 料金 6,500円/1人



4 緑の尾根・ブナの森を巡る

スペシャルルート

～大杉谷3days～

大杉谷山岳救助隊の森隊長がガイドする秘密のルートを巡る3日間！少人数でゆったりと大杉谷～大台ヶ原を楽しむことができるお勧めプランです。

1日目は桃木山の家までの大杉谷の絶景を、2日目は大杉谷の後半とともに正規ルートを外れてスペシャルな登りを、3日目は清流・宮川の源流をたどり緑の尾根へ。



- 期間 5/22～24、10/23～25
- 時間 1日目/8:15集合（近鉄松阪駅）
or 9:00集合（道の駅 奥伊勢おだい）
歩行距離：約6km、歩行時間：約5.5時間
2日目/歩行距離：約5.5km、歩行時間：約5時間
3日目/歩行距離：約5km、歩行時間：約5時間
- 定員 8名（最小催行人数4名）
- 料金 52,000円/1人



ほかにも魅力的なツアーが満載！

ツアーの詳細・予約については、Verde大台ツーリズムのホームページ（<http://verde-odai.co.jp>）をご覧ください